

第3学年 図画工作科学習指導案

第3学年 28名
指導者 柿部 明子
後藤 敦子
授業場 3年教室

1 題材名 くつ下や手ぶくろにまほうをかけて ～うらしように住むふしぎな生き物をつくろう～ <A表現(2)立体に表す・B鑑賞>

2 題材設定の理由

本題材は、靴下や手袋などの布製品の形を変えたり、組み合わせたりなどいろいろ試しながら、自分が表したい「うらしように住むふしぎな生き物」を立体に表す活動である。布製品は、中に新聞紙を詰めたり、ひもで結んだりすると、まるで材料に魔法をかけたように形を変えていく。そのような造形的な操作をすることで形が変わる様子を楽しみながらイメージをふくらませ、自分の好きな形をつくっていく。このようにいろいろ試しながら表すことで、自分のつくりたい形ができる楽しさを実感することができる。また、本題材は、1学期に学習した社会科「わたしの住むまちはどんなまち」や総合的な学習「大すきうらしよう!」を基に、自分たちが住む浦庄の好きな場所と結び付けて「うらしように住むふしぎな生き物」を考えさせていく。そうすることにより子供たちにとっては、浦庄の好きな場所とつながって作品への愛着がわき、心に残る作品になることも期待できる。また、出来上がった作品を紹介し合う活動を通して、自分や友達の仕事の表し方の違いやよさなどを見付け、味わうことができる。

本学級の児童は、明るく素直で、何事にも意欲的に取り組むことができる。図画工作科が好きな児童が多く、7月に実施したアンケートでも93%の児童が好きと答えている。6月に行った立体に表す活動『みんなの「ふわふわさん」で、ふわふわワールドをつくろう』では、綿の特徴を生かしながら、思い付いた「ふわふわさん」を楽しんでつくることができた。しかし、アイデアスケッチの段階で「くまにしたい。」とか「空を飛ばしたい。」などという友達の発言に影響を受ける児童もいた。それぞれの児童が、材料とかかわる時に思い付いた発想や材料の組み合わせを試して分かったことを基に、自分らしい表現を追求してほしいと願う。そこで、発想の段階で自分のイメージをしっかりとめさせる必要があると感じた。

指導に当たっては、材料を見たり触ったりして感じを確かめながら材料とかかわる時間や、いろいろな組み合わせを試しながら表す時間を十分とることで、一人一人が自分のイメージをしっかりとめるようにする。そして、校区探検で歩いた浦庄の好きな場所にいたらいいと思う「ふしぎな生き物」を考えようと動機付けをすることで、さらにイメージをもちやすいようにしたい。また、アートタイムにいろいろな材料の組み合わせ方や接着の仕方を試行させておくことで、自分のイメージに合った表し方が工夫できるようにする。最後に、好きな場所の写真に出来上がった作品を登場させて、自分たちがつくった絵地図に照らし合わせながら紹介していく活動を通して、互いの作品の違いやよさを味わわせたい。みんなの作品が浦庄の町に勢揃いすることで、達成感や自己肯定感が高まり、自らつくり出す喜びを味わうことができるであろう。自他の作品に愛着をもつと共に、自分たちの住む浦庄を愛する気持ちを育てたい。

3 題材の目標

- 靴下や手袋などの材料の形が変わっていくことに興味をもち、自分の思いで「うらしように住むふしぎな生き物」づくりに取り組むことができる。(造形への関心・意欲・態度)
- 変化した材料の形から発想を広げて、「うらしように住むふしぎな生き物」を思い付くことができる。(発想や構想の能力)
- 表したいことを基に、材料の形や色、組み合わせの面白さを生かしながら、表し方を工夫することができる。(創造的な技能)
- 自分や友達の仕事の表し方の違いやよさなどを見付け、味わうことができる。(鑑賞の能力)

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
靴下や手袋などの材料の形が変わっていくことに関心をもち、自分の思いで「うらしょうに住むふしぎな生き物」づくりに取り組もうとしている。	変化した材料の形や色から発想を広げて、つくりたい「うらしょうに住むふしぎな生き物」を思い付いている。	表したいことを基に、材料の形や色、組み合わせの面白さを生かしながら、表し方を工夫している。	自分や友達の子どもの作品の表し方の違いやよさなどを見付け、味わっている。

5 指導と評価の計画（全5時間 本時4／5）

時間	学習活動	評価規準・評価方法			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第一次 (二時間)	<ul style="list-style-type: none"> 集めた布製品を見たり触ったりして、形や色の感じを味わいながら、魔法をかけて変身させる。 いろいろ組み合わせを試しながら、浦庄の好きな場所においてほしい「うらしょうに住むふしぎな生き物」を考え、アイデアスケッチにかく。 	靴下や手袋などの材料の形が変わっていくことに関心をもち、材料を変身させることを楽しんでいる。(観察)	変化した材料の形や色から発想を広げて、つくりたい「うらしょうに住むふしぎな生き物」を思い付いている。 (観察・対話・アイデアスケッチ)		
第二次 (二時間)	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージに合わせて材料を組み合わせたり、表し方を工夫して「うらしょうに住むふしぎな生き物」をつくる。 (本時4／5) 			表したいことを基に、材料の形や色、組み合わせの面白さを生かしながら、表し方を工夫している。 (観察・対話・発言・表現)	

第三次 (一時間)	○ 自分や友達 の作品のよさを味 わう。				自分や友達 の作品の表し方 の違いやよさな どを見付け、味 わっている。 (観察・発表・ 振り返りカード)
--------------	----------------------------	--	--	--	---

6 本時

(1) 目標

自分の「うらしように住むふしぎな生き物」になるように、材料の形や色、組み合わせの面白さを生かして、表し方を工夫してつくることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における 具体的評価規準	評価 方法
10分	1 本時の活動への意欲をもち、本時のめあてを確認する。	○ 前時での活動を確認し、本時の各自のめあてを明確にもたせて、製作への意欲を高める。		
30分	2 自分のイメージに合った「うらしように住むふしぎな生き物」をつくる。	○ 児童一人一人のイメージを大切にしながら、材料の特性を生かした表現の工夫ができるように助言する。 ○ 技術的な指導が必要な児童には、材料の組み合わせ方や接着の仕方などについて、模範を見せながら助言したり、工夫された友達の表現を紹介したりする。	表したいことを基に、材料の形や色、組み合わせの面白さを生かして、表し方を工夫している。 【創造的な技能】	観察 対話 発言 表現
5分	3 本時の学習を振り返り、次時への意欲をもつ。	○ それぞれの表現のよさや工夫を賞賛し、次時の活動への意欲を高める。		

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断できる状況	・ 自分のイメージを基に、浦庄の好きな場所とのかかわり等を考え、材料の形や色、組み合わせを生かしながら、生き物の特徴が分かるように表している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・ 対話や観察により児童の思いを見取り、様々な参考作品や製作途中の友達の作品等を見せたり、材料の組み合わせ方や接着の仕方などについて例を見せたりしながら助言する。